

第27回学校教育審議会での委員からの意見

信頼され、地域を結ぶ学校づくり

- ・学校評価は自分で診断することに価値がある。学校の元気につながるような評価をしてもらいたい。
- ・学校組織における分業と協働、教職員だけにとどまらず、専門家、地域も含めて、組織としての目標とビジョンを掲げて組織を見直すべき。

組織的な学校運営

- ・企業経営モデルが悪いということではないが、教育は農業みたいなどころがある。企業経営モデルは工業的な発想。学校は自律的なマネージメントが必要だと思う。
- ・組織としては、やはりPDCAサイクルは必要。
- ・指導教諭については、教員の目的意識としてもよいと思う。職をつくるということは、管理が強まるという意識があるが、これは、良い意味での組織づくりになる。
- ・学校運営の効率化について、大事なことは校長のリーダーシップ。TRyシステムのように校長に人事権の一部を委ねたり、費用の面でも校長裁量枠があることにより、校長のリーダーとしてのマネージメントのあり方は変る。

校務運営の効率化

- ・教員が一人ひとりの子どもにしっかり関わられるような条件作りをすることが重要。組織としてそこに時間とエネルギーを費やせるような校務の見直しが必要。

外部人材の活用

- ・子供が相談するのは一義的には先生であるべき。教員がどうしてもよいかわからないのであれば、その教員の力に疑問を感じる。
- ・日本の教員の仕事は無限定的であり、全てを教員がするには限界がきているが、丸投げはいけない。外部人材の活用については、お互いの専門性を活かしながらすすめていくべき。
- ・外部人材が入ることは、自分の専門性を確かめる良いチャンスであり、それを磨きあげていくべき。教員と専門家がどのようにコラボレートするかが問われている。

学校の自律的な取組みを支援

- ・学校が目標を掲げ、それがうまくいかないときに教育委員会がどのような支援をするのが重要。その仕組みをつくらないと学校は孤立無援になってしまう。
- ・スクールカラーサポートプランや校長の裁量枠について。これは学校が前向きになれる。

チームによる支援

- ・最近では学校もいろいろな問題があり、自分の専門性を越えたところにある課題をどうするのか。企業ではないが一定の分業化は必要。
- ・教員が本来の教育活動に専念していくために周辺の仕事を整理することが必要。保護者の対応は教員緒本来業務だが、クレマー等への対応や給食代の未納対応など、一定の線を越えた業務や周辺の業務について支援する方策が必要。